

## なからぎ

170号

2005年1月

## 「読み書きそろばん」(その2)

学長 竹葉 剛

私が教務部長の時(2001年7月)、この図書館報の巻頭文に「読み書きそろばん」を書いた。今回は「その2」と題して、今日の府立大学の教育課題について述べたい。

ご承知のように、学校教育法が改正されて、すべての大学は第三者評価を受けることが義務となった(2004年度から7年に1度)。具体的には、まず大学や学部が単位となって、教育および研究について、目標を設定する。一定期間経過後に、その達成度を自己評価する。その自己評価書を文部科学大臣の認証する機関が第三者評価し、その内容を公表する。問題があれば改善を迫られる、ことになる。そこで、本学としても、大学としての教育目標を設定することが必要となったわけである。現在、教務部長を中心として、その教育目標設定作業の準備が進んでいる。

大学の教育目標を設定するということは、その大学の卒業生について、社会に対する一定の品質保証を行うことを意味する。京都府立大学の卒業生であれば、どの学部を出ていてもこの点は保障されているから安心だ、という形で社会的に定着することが最終目標となる。そのため、京都府立大学の教育目標については、本学関係者が大いに語り合うことが必要と思う。そこで、この点について私の意見を述べてみたい。

人の能力は非常に多様であるから、望ましい能力を一つ一つ挙げていけば相当な数になる。しかし、それらをすべて目標とするわけにはいかないから、教育目標を設定する作業というのは、どの能力がもっとも基礎的で重要か、という議論となる。私の結論を先に言えば、言語運用能力と物事の量的把握の能力、の二つだろうと思う。その理由は、人は考える際に二通りの方法を使っているからである。一つは言語を使って考える方法であり、もう一つはイメージとして考える方法である(前者は左脳、後者は右脳の機能と対応している、という説もある)。これらの能力は脳の働きの土台となっているため、鍛錬するのに時間がかかる。

言語運用能力については、前回の「読み書きそろばん」でふれた。しっかりした日本語の文章が書けるためには、多くの本を読む必要があり、そのために図書館が有効に活用される必要がある。今後のグローバル化する時代には、英語で読み書き話す能力が必須となる。そのためにも、英語で読み書き話す練習の場が必要となる。「物事の量的把握の能力」は、話の流れでは「そろばん」や情報教育に対応するが、パソコンの使い方を教える現在の情報教育のみでは、その能力を鍛えるには不十分であろう。情報教育のさらなる工夫が必要となる。さて、情報機器とソフトが進歩しつつある現在、語学教育、情報教育の場としての図書館の姿も描けるのではなからうか。

(たけば ごと)

## 私の好きな図書館

図書館運営委員 河西立雄

一度は訪れてみたいと思っていた図書館に行く機会を得た。スウェーデンにあるストックホルム市立中央図書館である。スウェーデンで最初の公共図書館として1927年に建設されたもので、建築家グンナール・アスプルンドによって設計された開架室主体の図書館である。特徴は中央の円筒形をした大きな吹き抜けの閲覧ホールで、その周囲に四角形の研究閲覧室が配されている。全体としては円と四角が組み合わされた左右対称の単純な幾何形態による構成で、レリーフや象眼の控えめな装飾が施された部分を併せ持つため、様式建築から近代機能主義への転換期に建てられたものであることが理解できる。

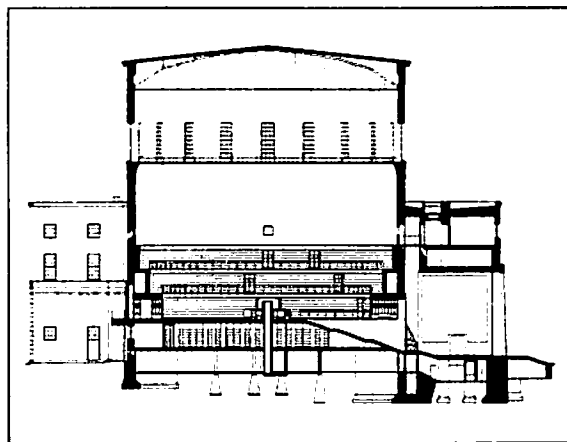
小高い丘に続く緑地に建てられていて、市街地から歩いて行くと、四角い池のある図書館公園が先に現れ、その向こうに赤茶色の外壁をした図書館が見えてくる。私が訪れたのは初冬で、あいにくの曇天だったが、外壁の鮮やかな色が目を引いた。前面道路であるス

ヴェア通りの歩道からはスロープで導かれる。図書館の玄関を入るとすぐに階段があり、1階分上ると中央の閲覧ホールに出る。基準階となるこのホールは、直径と天井高がそれぞれ28メートル程あって、円筒形の壁に沿って3層の書架が段状に組み込まれている。天井はドームではないが角が少し丸みを帯びた形状で、その少し下に高窓があげられている。また中央から大きな照明器具がぶら下がっている。天井と壁は白漆喰で仕上げられているが、壁には日本で言うなまこ壁のような帯状の隆起があり、不思議な風合いを醸し出している。

優れた建築は、全体としては大きな建物であったとしても、人がそばに近づく部位については一般に考えられる標準寸法よりも小さく設計されている場合が多い、と私は思う。つまり大小の空間や空間的要素の抑揚が利いているのである。たとえばドアの高さや幅、便所の各寸法、椅子の大きさなどの扱いです。この図書館では、3層の書架や研究閲覧室との連



公園から見た図書館外観



断面図

絡通路、閲覧席の家具の寸法がまさに当てはまる。大柄なスウェーデンの人たちが使用することを考えると、なおさらそう思える。

私が特に感銘を受けたこととして、28メートル程の天井高というのは現代の7階建てのビルに相当するのだが、書架が配されているのは下部だけで、高さのうちの20メートル分は何も置かれていない吹き抜け空間になっているという点である。合理性や経済性の理屈からすれば、物理的に使えない空間は無駄だということになるのだろう。しかしながら実際に訪れて、閲覧ホールに足を踏み入れてみると、この巨大なヴォイドが実におおらかで、大きな中庭にいるように感じられる。私は数時間このホールにいたが、とても居心地が良く、くつろぐことができた。利用者は皆おそらく、自分の上部にある何もない空間を無駄とは思っていないはずである。円筒形の空間は堂々として知の殿堂といった趣であるが、決して敷居が高いわけではなく、市民に親しまれよく利用されているようであった。竣工後75年

以上を経てもなお、ストックホルム市の中央図書館として機能しているのは、素晴らしいことだと思う。

当初の設計案では閲覧ホールはドーム状をしていたが、構造と予算の制約から円筒形に変更されたようだ。しかしこの判断が結果的には良かったのだと思う。円筒形という単純な形態を採用したことで、近代建築の文脈にこの建物を引き寄せる結果となり、アスプルンドの建築とスウェーデンの建築文化は世界に知られるところとなった。もともと図書館の中央にドーム状の空間が想定されたのは、その内部空間を人間の「脳」に見立てようとしたからだと伝えられている。彼が示したこの考えは実現案で円筒形に形を変えた後も生きていて、外部からスロープと階段で脳の中に導かれるというコンセプトは、意味の形式にのみ溺れることなく、おおらかで明るく質の高い空間を創造していると言えるだろう。なまこ壁のような帯状の隆起は脳の皺だったのである。

(かわにし たつお：人間環境学部助教授)



円筒形の閲覧ホール

## 図書館のカウンターから ～レファレンスあれこれ～

図書館のカウンターでの業務の一つに、レファレンスという業務があります。これは「図書館利用者が学習・研究・調査等のために必要な資料および情報を求めた場合に、図書館員が図書館の資料と機能を活用して資料の検索を援助し、資料を提供し、あるいは回答を与えるなど、利用者と資料とを結び付ける業務」<sup>(1)</sup>のことをさします。

レファレンスの内容は実に様々です。府大図書館の蔵書検索のやり方や表示された画面の読み取り方から説明する場合(利用教育)もありますし、図書館や学内あるいは市内の他大学のどこにあるかを案内する場合(案内)もあります。「〇〇大学の博士論文の入手方法は?」といったもの(事項調査)もあります。冊子体の資料・文献目録や参考図書(辞・事典、白書、年鑑等)を使うこともあります。普段はカウンターの業務用端末で画面を利用者と確認しながら、資料の特定をしていく場合がほとんどです。しかし、残念ながら現在カウンターには貸出・返却と共用の1台しか端末がないので、落ち着いてレファレンスができていないのが現状です。

10月一ヶ月間に206件のレファレンスがカウンターでありました。その中の特徴的な事例は記録しています。レファレンス記録を残すのは、記録することで下記のことが可能になるからです。

①利用者の質問を図書館という組織で受け止めることになる。②利用者への追加情報の提供が可能になる。③類似の質問にすばやく対応できる。④他のスタッフの協力を得る場合、質問内容、調査過程、判明事項が正確に伝達できる。⑤仕事のシフトがローテーションの場合、正確に引き継ぎができる。⑥探索戦略、調査過程、使用参考図書などが他のスタッフの共通認識となる。<sup>(2)</sup>

これまでの記録の中から事例を2つ紹介します。

例1 Q:「ダム管理年報」という資料を探している。

A:①府立大学は未所蔵。NacsisWebcatで検索しても該当なし。果たして書名は正しいのか?②Googleで検索「多目的ダム管理年報」が正式書名と判明③再度NacsisWebcatで検索 第36回(H4年版)まで刊行。近隣で所蔵している大学がない ④では公共図書館はどうか? K-Lib(京都府図書館総合目録)で検索すると、府立総合資料館に第35回は所蔵していることが判明。⑤本当に京都大学にないのだろうか? 京都大学の学内OPACで検索 ⑥工学研究科土木系図書館に第36回所蔵が判明(後日NacsisWebcatを再検索すると、違う書誌で京大は登録していたのを見落としていた)

例2 パソコン上から簡単に府大の蔵書検索ができるようになったので、毎日のように学外からの問い合わせがあります。

Q:ある研究所から井之口有一先生<sup>(3)</sup>が尼門跡ことばの研究で使用された音声資料を図書館で保管しているか? いない場合どこに問い合わせればよいか教えてほしい。

A:図書館では保管していなし、学内にもないようだ。「京都府立大学学術報告・人文」第19号の中に京都府方言資料目録(p147~164)の(1)録音に「尼門跡の言語生活の調査研究」で使用された資料が紹介されているが、全て井之口有一録音所持となっている。保管先の可能性としては、①府大退官後在職された大学 ②共同研究者(共著者の堀井令以知先生の所属大学を「全国大学職員録私立大学編2004」から紹介)③ご家族(先生は1995年3月17日にお亡くなりになられていて、著作権の継承者は三女ということが「著作権台帳」26版より判明。府大は「著作権台帳」を所蔵していないので府立図書館に調査依頼)

もちろん、提供・回答できた例ばかりではありません。まったくお手上げの場合もありますし、国外の所蔵先までは突き止めたが、入手方法がなく先に進めなかった場合もありました。OCLC<sup>(4)</sup>に参加していたら入手できていたものもありました。

府大の図書館はオープンキャンパスに来校した高校生に「高校の図書室より小さい」、他大学の学生から「図書館は他にもあるのですか」といわれている状況です。現在は「図書館に来ていただいたら、お探しの資料は揃っています」と胸を張ってお答えするには程遠い状況にあります。でも、どこに行けば見られるか、入手できるのかの援助はします。ともかく図書館に足を運び、職員に訊いて下さい。

(閲覧係)

(1)(2)『最新図書館用語大辞典』柏書房 010.33IT (3)元京都府立大学女子短期大学部国語科教授 「京ことば辞典」を編集されています。(4)府大は今のところ外国図書館への依頼はBritish Libraryだけです。OCLCには世界84ヶ国45,000館が参加しているので、今まで入手できなかった文献も入手できるかもしれません。

平成16年度第2回図書館運営委員会および第2・3回ワーキンググループ開催報告  
～電子ジャーナル SpringerLink コンソーシアム (公立大学) 参加を確認～

【図書館運営委員会】

第2回図書館運営委員会が10月21日、本館第1会議室で開催された。第1に平成17年度図書館当初予算要求、第2に今年度新規図書購入、第3に電子ジャーナルの導入等について提案・討議された。

第1の予算要求では、「ハイブリッド型図書館構築に向けて～府大図書館の情報化基盤整備と電子図書館的機能の獲得課題～(2002.9.24 図書館運営委員会決定)」の具体化として、現行閲覧室のスペースの有効利用をはかり従来からの懸案事項を一定解決するために a) 閲覧室のリニューアルをはかる。内容として①書架の増設…参考図書の分断解消・一般図書開架冊数の増②図書館システム端末増設…利用者相談充実・職員業務改善③「インターネットコーナー」「検索端末コーナー」の移設・統合…情報検索・職員と利用者のコミュニケーションを充実する。b) 学術情報基盤の整備のために「目録情報の週及入力」の促進をする。c) 図書館図書購入費の増額…学生1人当図書館購入冊数を全国平均並にする。d) 電子ジャーナルの新規購読をはかる。

第2の新規図書購入では、教員選書の購入・受入状況が報告された。

第3の電子ジャーナルは、検索電子ジャーナルの状況(「表1～3」参照)や先生方の意見、全学的観点等をふまえて①SpringerLink②EBSCOhost (Academic Search Elite) の導入を要求する。

提案は、電子ジャーナルについて、具体的方向性を出していくことを含めて了承された。

【ワーキンググループ】

11月25日に、第2回ワーキンググループが開催された。予算状況がきわめて厳しいことに鑑み、低額・当大学規模・電子ジャーナル導入の一步を踏み出す等を勘案して、出版社系SpringerLinkコンソーシアム参加について全先生方に議論して頂くことになった。

12月14日、第3回が開催され、全先生方の議論を受けて①提案の電子ジャーナルを導入する②経費問題は来年度予算が確定した段階で具体的に考える③全学的にカバー可能なように電子ジャーナル増の継続検討④図書館洋雑誌予算の見直しをする。ということが確認された。

(表1) EBSCOhost のアクセス状況 (2004.5.10～2004.7.10 62日間)  
1日平均のアクセス数

Database Name	Searches	PDF Full Text	HTML Full Text	Abstract
Academic Search Elite	14	5	6	9
Sociological Collection	3	1	1	1

(表2) ProQuest のアクセス状況 (2004.5.10～2004.7.10 62日間)

	Searches	Database	Cit/Abstract	Any FT Format	Total
5月	213	Academic Research Library	136	136	272
6月	226	Academic Research Library	123	138	261
7月	122	Academic Research Library	27	228	255
	1日平均のアクセス数		5	8	13

(表3) Info Trac OneFile(Gale) のアクセス状況 (2004.4.26～2004.7.10 76日間)

	Sessions	FT	Rtrvls	Srches
Info Trac OneFile	220	61	118	450
1日平均のアクセス数	3	1	2	6

新春雑感

今年の干支は「乙酉」。「辞典類」では一酉とは十二支第十位で動物の鶏が当てられているとあります。「鶏」の多くは、羽根の彩りも美しく、年賀状やカレンダーのモデルに相応しい風格を有しているのは確かです。庭での放し飼いは最近珍しくなりましたが、肉や卵も美味しく人間にとって有益で親しまれている家禽です。また「一番鶏」が夜明けの時を告げる習性も古来から変わりなく、「朝日と鶏」の取り合わせは平和で長閑な絵になる風景です。特に今年の初日の出には、「生きている喜び」を万感の思いを籠めて「高らかに長鳴いた」ことでしょう。何故なら昨年、沢山の鶏達が鳥インフルエンザ騒動の犠牲になった凄惨な光景とあの悲鳴は、決して忘れサルことはできないからです。思えば昨年は東西を問わず度々の「自然災害」で空や海、山や川などから猛烈な仕打ち、まさに未曾有の総攻撃を受けた1年間でした。

更にここ何年来、世界中で不穏なニュースが飛び交う人心落ち着かない情勢が続いています。そこで「闘い」をキーワードに古典を探ってみると、その昔、荘子が達生篇で曰われた「木鶏」の寓言に出会いました。勝負師がぎらぎらと闘志をむき出しにしているようでは優れた仕上りとはいえず、使い物にならない喩えだそうです。それにつけても気に掛かります。一見木彫りにしか見えないのに、内面では闘争本能を着々と増強した「闘鶏」の集団が一気にエネルギーを爆発させるような物騒な出来事がもうこれ以上起こらない「トリ歳」でありますように。(S記)  
参考文献：「荘子」〈外篇〉福永光司訳、朝日新聞社、1966(新訂中国古典選：8)他

カレンダー

2005年1月							2005年2月							2005年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
23	24	25	26	27	28	29	27	28						27	28	29	30	31		
30	31																			

【12/28(火)～1/4(火)年末年始休館  
新年は1/5(水)から開館】

【1/5(水)～1/27(金)通常貸出実施  
(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】

【1/10(月)〈成人の日〉】

【～1/13(木)冬休み長期貸出図書返却期限】

【2/11(金)〈建国記念の日〉】

謹賀新年

【～3/16(水)春休み長期貸出返却期限(卒業生)】

【3/21(月)振替休日】

【3/22(火)～31(木)は閲覧室資料整理点検のため閲覧室を休室します。休室中は図書の閲覧・貸出・文献複写依頼等業務全てを休止します。ただし、3階各室は利用できますので、2階閲覧室カウンターで申し込んでください。なお、休室中の図書の返却は、図書館1階西側の「図書返却ポスト」を利用していただいても結構です。】

◆ 【1/28(金)～3/18(金)春休み長期貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限：卒業生～3/16(水)、在校生～4/11(月))】 ◆

開館時間等		
通常開館	9:00-20:00	
冬期休室 (12/24～1/5) 9:00-16:45	1/13(金) 20(土) 27(土) 9:00-16:45	休室 (3/22～3/31) 9:00-16:45
休館日	土・日・祝祭日・年始	